

NCGM メディアセミナー開催概要

日時：2014年9月16日(火) 18:00～19:00

会場：国立国際医療研究センター 研修センター棟 4階セミナー室 3,4

テーマ：『国際協力』（10月6日は国際協力の日）

- 日本がおこなってきた国際保健医療協力
仲佐 保（国立国際医療研究センター国際医療協力局 国際派遣センター長）
- 国際保健の新たな潮流
明石 秀親（国立国際医療研究センター国際医療協力局 研修・企画課長）

<NCGM メディアセミナーとは？>

当センターが取り組む健康・医療の課題をメディア関係者に広く共有するために開催しています。

専門家からの情報収集、不明事項の確認の場、また、医療に関わる専門家がメディアの方の質問から学び、視野を広げる場とすることが目的です。メディアの皆様から、話してもらいたいテーマや内容があれば、いつでもお聞かせください。

今後も随時開催する予定ですので、報道機関の皆様のご参加をお待ちしております。

<セミナー内容>

1. 宇都宮国際医療協力局長からの挨拶



2. 日本がおこなってきた国際保健医療協力：仲佐 保（国際医療協力局 国際派遣センター長）

(1) 貧困と格差

先進国（地域）においては死ななくてもよい病気（出産を含む）で亡くなっている

(2) 国際医療協力の実績

①緊急援助（自然災害・感染症流行）

- ・1979-83：カオイダンカンボジア難民キャンプ
- ・1992：ニカラグア津波災害緊急医療援助隊

- ・ 2004 : インド洋津波災害 (タイ)
- ・ 2003 : SARS 緊急援助
- ・ 2011 : 東日本大震災 (宮城県東松島市)
- ②開発援助 (公衆衛生対策/母子保健対策・感染症対策・保健システム対策)
 - ・ 1987~ : ボリビア サンタクルス病院への協力
 - ・ 2004 : ベトナム バックマイ病院プロジェクト
 - ・ 1991~1999 : 中国 ポリオ対策プロジェクト
- ③インフラ援助 (病院建設)、機材援助
- (3) 我々のコアの活動 -人材育成と仕組みづくり-
 - ①技術を教えるだけではなく、考え方と価値観を伝える
 - ②実践的な研修の開発
 - ③個人の育成から、仕組みづくり
 - ④国レベルの人材開発の理論と実践
- (4) 国際的プログラムへの貢献
 - ①予防接種拡大計画 (EPI-ポリオ) : 中国・ラオス・パキスタン・ベトナム・ブータン
 - ②結核対策 (DOTS) : イエメン・パキスタン
 - ③ハンセン病対策 : ミャンマー
 - ④HIV/AIDS 対策 : タイ・カンボジア・ジンバブエ・ミャンマー・ザンビア
 - ⑤インフルエンザのパンデミックへの対応 : インドネシア・東南アジア・日本
- (5) 我々のコアビジネス -国際課題の解決策を開発・展開-
 - ①理論だけではなく、現場のフィールドに立脚した方法を開発
 - ②これらの技術を世界へ展開
- (6) 人材育成 (海外からの研修受け入れ)・専門家 (医師・看護師等) の海外派遣・職員の各国への派遣状況

***セミナーの様子**



3. 国際保健の新たな潮流：明石 秀親（国際医療協力局 研修・企画課長）

(1) MDGs (Millennium Development Goals : ミレニアム開発目標)

①2000年に策定-2015年为目标年

②8つのGoal

- MDG 1 (貧困・飢餓の撲滅)
- MDG 2 (初等教育の普及)
- MDG 3 (女性の地位向上)
- MDG 4 (乳幼児死亡率)
- MDG 5 (妊産婦の健康)
- MDG 6 (HIV,マリア他の蔓延)
- MDG 7 (環境の持続可能性)
- MDG 8 (グローバルパートナーシップ)

(2) バングラディッシュにおける上位15の健康課題 (感染症疾患、非感染症疾患、母子衛生)
糖尿病、高血圧、心疾患などの生活習慣に関わる病気が上位に挙がっている

(3) 援助と企業参加に関する潮流の変遷

時間軸で見る企業側の変化、途上国側の変化、援助の潮流

(4) 援助とビジネスの関係性の変化

援助とビジネスは以前は別々にとらえられていたが、最近は社会的企業、BOPビジネスなど双方の重なる分野が認められる

(5) 新たな潮流とNCGM

- 海外での患者データ管理・共有化システムや機材導入に向けた手続き
- 海外の民間病院への医師派遣、研修生受入を検討
- 日本製の母子保健と育児に関するオンラインシステムの海外への導入を検討
- 特定製品の途上国での販売にかかる企業等へのアドバイス
- 既に海外展開している事業へのアドバイス
- 途上国での病院設立に関するアドバイス など

(6) 今後支援が必要となる健康課題

- ①生活習慣病 (途上国を含む)
- ②高齢化 (東アジアのみならず)
- ③交通外傷、環境悪化による健康被害
- ④災害や紛争 (温暖化、人口増加)
- ⑤経済格差 → 健康格差 (適切な医療へのアクセスの格差)

*セミナーの様子

